

# 第1学年 国語科学習指導案

日時：平成27年6月26日（金）第4限

場所：

指導者：

## 1. 題材名 文法1～言葉の単位

## 2. 題材を貫くテーマ

「文」「文節」「単語」など、言葉の単位について理解することができる。

## 3. 題材について

### (1) 題材について

本題材は、中学校で学習する最初の文法教材であり、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の(イ)「言葉の特徴やきまりに関する事項」の(エ)「単語の類別について理解し、指示語や接続詞及び、これらと同じような働きをもつ語句などに注意すること」に関連する題材である。

本題材では、文章・談話、段落、文、文節、単語といった言葉の単位や、文節、単語の区切り方を学習する。その中でも、単語は、品詞分類の単位であり、1年生で扱う「自立語・付属語の分別」、2年生で扱う「用言の活用」につながっていく基礎・基本的な学習事項である。そのため、単語の区切り方を確実に理解、定着させておきたい。

### (2) 生徒の実態

一般的に、文法学習に対して苦手意識を持つ生徒は多い傾向にあり、文節で区切ることができても、単語の分かれ目の判別を苦手とする生徒は少なくない。本題材では、自立語・付属語の分別や活用形は扱わないため、「つけた」や「休んだ」などの助動詞を含む文節が、「つけ」と「た(存続)」に分かれることが、理解しづらい生徒がいると予想される。

本学級の生徒(計21名)は、文章を書くことそのものに対して強い抵抗感を持っている生徒は少ないが、常体・敬体の混在や「ら抜き言葉」が見受けられる生徒、係り受けの間違いに気づけない生徒も多く、日本語の乱れや、言葉の決まり(文法)に対する意識の低さを感じられる。また、話し合う力が未熟であり、考えを共有する場面でも、書いたものを見せ合うのみで、説明・相談はしていない様子が見受けられる。個別に質問すると答えることができるため、話し合う際のルール作りなど、手立てが必要であると考えている。

### (3) 指導について(本単元で工夫する点や手だて)

指導にあたっては、本題材での「言葉のまとまり」を考える学習を通して、普段使っている日本語にも規則性があることに気付かせ、言葉の決まり(文法)に興味・関心を持たせる機会にしたいと考えている。また、初めての文法学習で苦手意識を持つ生徒もいると予想されることから、分けられる単語の数を先に示し、クイズ形式にすることで、試行錯誤させながら、どの生徒にも取り組めるようにしたい。さらに、話型を示すこと、ペアを活用し全員が説明する機会を設けることで、話し合う力の育成に努めたいと考える。

## 4. 題材の目標

- ・日常書いたり話したりしていることと、文法の学習を関連づけながら取り組むことができる。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・「文」「文節」「単語」など、言葉の単位について理解することができる。  
(言語についての知識・理解・技能)

## 5. 題材の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
各設問に積極的に取り組み、言葉の単位を見つけ出そうとしている。				「文」を「文節」に区切ることができる。さらに、「文節」を「単語」に分けることができる。

## 6. 指導と評価の計画（全2時間）

時	ねらい	評価規準				知識・理解・技能	重点
		関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む		
1	言葉の単位として、「文章」「段落」「文」「文節」という単位があることを理解することができる。	日常書いたり話したりしていることと、文法の学習を関連づけながら取り組んでいる。				「文節」について理解し、簡単な文を文節で区切ることができる。	主に習得
2 (本時)	「文節」は「単語」に分けられ、「単語」が最小単位であることを理解することができる。					「単語」について理解し、簡単な文を単語にまで分けることができる。	主に習得

## 7. 本時の学習指導

### ①本時の目標

「文節」を「単語」に正しく分けることができる。（言語についての知識・理解・技能）

### ②学習課題

#### (1) 習得させること

「単語」について理解し、簡単な文を「単語」にまで分けることができる。

「ドアの向こうから、フルーツの美しい音色が聞こえる。」

⇒「ドア／の／向こう／から、／フルーツ／の／美しい／音色／が／聞こえる。」

#### (2) 予想される生徒のつまずき

ア) 複合語や、「〇〇する」というサ変動詞を二語に分けてしまう。

例：×「期末／テスト」 ○「期末テスト」

×「勉強／する」 ○「勉強する」

イ) 助動詞を含む文節を二つの単語に分けることができない。

例：×「かばん／に／つけた」 ○「かばん／に／つけ／た」（「た」は存続の助動詞）

×「学校／を／休んだ」 ○「学校／を／休ん／だ」（「だ」は過去の助動詞）

(3) 深化課題

次の文を、単語に分けなさい。なお、各文は【 】の中の数の単語に分けることができる。

- ・ 期末テストに向けて、一生懸命勉強する。 【6】
- ・ 机の表面に、かすかな傷があります。 【9】
- ・ かばんにつけた鈴が鳴る。 【7】
- ・ 雨で試合を中断することになった。 【9】
- ・ 僕は、昨日風邪をひいて休んだ。 【9】

③ 予習について

教科書 P221 を読んでくる。

④ 展開

	教師からの説明・課題提示	主な発問と 予想される生徒の反応	教師の働きかけ(・) と評価(※)
教える 10分	<p>1. 予習の確認</p> <p>2. 説明 単語とは何かを説明する。</p>	<p>単語…言葉の意味を壊さないように、 文節をさらに細かく分けたもの。 最小の単位。 であることを知る。</p>	<p>・ 既習事項(文節)には軽く触れる程度にとどめる。</p>
	<p>● 次の文を、単語に分けなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山の上に白い家がある。 文節⇒「山の／上に／白い／家が／ある。」 単語⇒「山／の／上／に／白い／家／が／ある。」</li> <li>・ 兄が新聞を読む。 文節⇒「兄が／新聞を／読む。」 単語⇒「兄／が／新聞／を／読む。」</li> </ul>		
		<p>最初に文節に区切ってから、単語に分けることを確認する。</p>	
考えさせる 32分	<p>3. 理解確認</p>		
	<p>● 次の文を、単語に分けなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ドアの向こうから、フルートの美しい音色が聞こえる。</li> <li>② ソファでうとうと昼寝する。</li> <li>③ 夏休みに祖母の家を訪ねる。</li> </ol>		
	<p>(1) 個人で考えさせる。 (2) ペアで答えを確認、説明させる。 (3) 代表者に説明させる。</p>	<p>・ 「昼寝する」を用いて、「〇〇する」が、一語であることを確認する。 ・ 「夏休み」が複合語であることを確認する。</p>	<p>・ 話型を示し、全員がペアに説明できるようにする。 ・ ペアで順番に説明する機会を確保する。</p>

<p>考えさせる</p> <p>3 2 分</p>	<p>4. 理解深化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>●次の文を、単語に分けなさい。なお、各文は【   】の中の数の単語に分けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末テストに向けて、一生懸命勉強する。【6】</li> <li>・ 机の表面に、かすかな傷があります。【9】</li> <li>・ かばんにつけた鈴が鳴る。【7】</li> <li>・ 雨で試合を中断することになった。【9】</li> </ul> </div> <p>(1) 個人で取り組む。(5分)</p> <p>(2) 班で共有し、班で一つの解答を作る。(7分)</p> <p>(3) 全体で共有する。(5分)</p>	<p>[予想されるつまずき]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合語を二語に分けてしまう。</li> <li>・ 「〇〇する」などの動詞を二語に分けてしまう。</li> <li>・ 「〇〇た」が二つに分けられることに気付かない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単語の数を先に提示し、どこで分けることができるのか、生徒に考えさせたい。</li> </ul> <p>※「単語」について理解し、簡単な文を「単語」にまで分けることができたか。</p> <p>(学習プリント)</p> <p>【知識・理解・技能】</p>
<p>自己評価</p> <p>3 分</p>	<p>5. 自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価プリントに本時の成果と疑問点を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文で書くように声をかける。</li> </ul>

## 第2学年 英語科 学習指導案

日 時：平成27年6月26日（金）第5限

場 所：

指導者：

### 1. 単元名

PROGRAM3 Charity Walk

### 2. 単元を貫くテーマ

義務、命令、必要性についての表現を学び、自分の考えを言うことができる。

### 3. 単元について

#### (1) 生徒について

これまでの学習では、新出文構造を用いて自分の思っていることを表現することができるように、①理解確認段階でドリル学習や教え合い学習を行い、②理解深化段階でグループでの表現活動等に取り組んできた。また、最低限世界で通じる発音で英語を話すことができるように発音、文変化、イントネーション等の英語の音声的特徴を意識した帯活動(授業の始め5分～10分を使って継続して行う活動)や音読練習を行ってきたが、多くの生徒が、理解確認問題に積極的に取り組み、ペアや班で協力して学習することができる。

また、英語の音声的特徴を意識しながら発表したり、音読したりする生徒も増えてきたが、英語への苦手意識が高い生徒や、英語の音声的特徴への意識が十分でない生徒も見られるため、ペアやグループで苦手なことを助け合えるような活動を多く取り入れている。

#### (2) 単元構成について

本題材は、学習指導要領「イ 話すこと（イ）自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」「エ 書くこと（イ）語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。」に基づき設定されている。

本単元は、チャリティ活動が日本や世界で広く行われていることについて知り、その意義を学ぶことができる単元である。また、タケシたちの会話から、規模は小さくても自分たちにもできることがあるということを感じ取ることができるようになってきている。言語材料としては must, have to, think (that)が扱われている。これらの言語材料を用いて、生徒が身近なものに対する自分の意見や考えを述べるようにしたい。

#### (3) 指導について

指導にあたっては、ペア学習やグループ学習を多く取り入れることで、英語を苦手とする生徒も活動に主体的に参加できる場面を増やしたい。また、理解深化段階では身近なテーマで表現活動を行わせたい。そして、このような、自分の考えを書いたり、話したりする活動を通して、生徒の自己表現の幅を広げたいと考えている。

また、昨年度の反省を生かし、自己評価段階でSEカード(Self-Evaluation Card)からあがった生徒の質問や分からなかったことを以後の授業で復習する機会を設けるなど、SEカードも積極的に活用していきたい。

#### 4. 単元の目標

- ・ペアやグループで協力しながら、間違いを怖れずにコミュニケーションを取ることができる。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・新出文構造を使い、自分の気持ちや意見を表現することができる。(外国語表現の能力)
- ・新出文構造を用いた文を読んだり、聞いたりして、その内容を理解することができる。  
(外国語理解の能力)
- ・世界のチャリティイベントの趣旨や内容を理解するとともに、新出文構造の用法を正しく理解することができる。  
(言語や文化についての知識・理解)

#### 5. 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①他の生徒と協力しながら、間違ふことを怖れずに、新出文構造を用いて話している。	①新出文構造を用いた文を使って、自分の気持ちや意見を表現している。	①新出文構造を用いた文や教科書本文(Charity Walk)を読んだり、聞いたりして、その内容を理解している。	①世界のチャリティ活動の趣旨や内容を理解している。 ②新出文構造の言語操作を正しく行っている。

#### 6. 指導と評価の計画 (全6時間)

時	ねらい	義務、命令、必要性についての表現を学び、自分の考えを言うことができる。	評価規準				重点
			コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
1	must を用いて、『交通標識』について英語で説明することができる。		○ペアや班で協力しながら、must を用いた文を間違いを怖れずに話している。			○新出文構造(must)の用法を正しく理解している。	主に習得
2	班で協力してスキットを作成し、英語の音声的特徴に気を付けながら発表することができる。		○英語の音声的特徴に気を付けながら英語を話している。	○新出文構造を使って書かれた文やチャリティイベントについて書かれた文を読んだり、聞いたりして、その内容を理解している。			主に活用

3	have to を用いて、日本での生活についてのルールを説明することができる。	義務、命令、必要性についての表現を学び、自分の考えを言うことができる。	○ペアや班で協力しながら、have to を用いた文を間違いを怖れずに話している。			○新出文構造 (have to) の用法を正しく理解している。	主に習得	
4	班で協力してスキットを作成し、英語の音声的特徴に気を付けながら発表することができる。			○英語の音声的特徴に気を付けながら英語を話している。	○新出文構造を用いて書かれた文やチャリテイイベントについて書かれた文を読んだり聞いたりして、その内容を理解している。		主に活用	
5 (本時)	think(that) ~.を用いて、自分の思っていることを表現することができる。						○新出文構造 (think (that) ~.) の用法を正しく理解している。	主に習得
6	班で協力してスキットを作成し、英語の音声的特徴に気を付けながら発表することができる。			○英語の音声的特徴に気を付けながら英語を話している。	○新出文構造を使って書かれた文を読んで、その内容を理解している。			主に活用

## 7. 本時の学習指導

### (1) 本時の目標

think (that) ~.の文を正しく用いることができる。(言語や文化についての知識・理解)

### (2) 学習課題

#### ① 習得させること

think (that) ~./ know (that) ~.

#### ② 予想される生徒のつまずき

- ・主語 + think 以降を主語+動詞の形にすることができない。例) I think he nice.
- ・ /th /の発音を /s /、 / /で発音してしまう。

#### ③ 深化課題

班で「鳥取県なんでも BEST5」とその説明を考え、発表に向けて練習する。

### (3) 予習について

- ・鳥取の有名なものや人を2つ取り上げ、自分が思うことを英語で書いてくる。(英語が苦手な生徒は日本語で書いてくる。)

## (4)展開

	教師からの説明・課題提示	主な発問と 予想される生徒の反応	教師の働きかけ（・） と評価（※）
教 え る 10 分	1. 説明 ・ 1分英単語に取り組む。 ・ ペアワークに取り組む。 ・ パワーポイントとワークシートを使い、「think (that) ～..」の文構造を教える。	[予想されるつまずき] ・ /th/を/s/、/j/で代用する生徒が出てくる。 (ペアで口の形をチェックする)	・ 生徒は、予習してきているので、説明は生徒とのやり取りの中で簡潔に行う。
考 え さ せ る 35 分	2. 理解確認 ・ 「think (that) ～..」の文をペアで説明し合う。 ・ ナビゲーターの問題①、②、③に取り組ませる。	・ 「私は～だと思ふ」という時は、I think that ～.を使うことを確認し合う。 [予想されるつまずき] ・ I think that 以降を主語＋動詞の順にできない。 ・ /th/を/s/、/j/で発音してしまう。	・ 英語が苦手な生徒も発表の準備ができるように、班内で協力しあうよう声をかける。
	3. 理解深化 <b>『鳥取を英語でプレゼンテーションしよう！ 鳥取県なんでも BEST5！』</b>	・ that 以降の文を主語＋動詞の形にすることができていない生徒の文を生徒同士で正しい文に直す様子が見られたり、発音よく練習しようとする生徒の様子が見られたりする。 [予想されるつまずき] ・ 主語＋think (that)以降を主語＋動詞の順にできない。 例) I think he nice.	※think (that) ～.の文を正しく用いることが出来たか。 (ワークシート) 【知識・理解】 ・ 発表を聞いて、何か所間違っただけ伝え、生徒たちで自力解決、練習を促す。
自 己 評 価 5 分	4. 自己評価 ・ SEカードに自己評価を文章で書かせる。		・ 本時の目標に照らし合わせて書くように伝える。

